

8/29 の大阪交流会での挨拶

■はじめに

皆さん、こんにちは。

大阪城を望むこのツイン 21 で、こうして皆さんの顔を見ながらお話しできることを、楽しみにして今日を迎えました。

実は今日は、皆さんに、私自身の口から、どうしてもお伝えしておきたいことがありました。

言うまでもないことですが、現代レイキは、私一人で作り、一人で育ててきたものではありません。

日本全国、そして海外の多くの皆さんが、ともに学び、実践し、伝えてくださったからこそ、今の現代レイキがあります。

今日は、皆さんへの感謝をお伝えするとともに、私自身の現在の状況について、率直にお話ししたいと思います。

■病状について

私は昨年 11 月に卒寿を迎え、妻もこの 2 月に卒寿を迎えました。

二人とも年齢とともに体力は落ちてきましたが、介護のお世話になることもなく、穏やかな日々を過ごしていました。ところが、この春から、私の体に突然異常を感じるようになりました。

5 月の連休明けから腹部の痛みが始まり、1 か月経っても痛みが強くなるばかりでしたので、総合病院で検査を受けました。

そして 6 月 30 日、胃がんが肝臓とリンパ節に転移しており、ステージ IV であること、そして「余命約 3 か月」と告げられました。

相談の結果、高齢のため手術や抗がん剤治療は対象外で、まずは自宅で薬による緩和ケアを行い、状態が悪くなればホスピスへの入所を考える、ということになりました。

現在は自宅で緩和ケアを受けながら、まもなく 3 か月目に入ります。

その後の検査では、がん細胞がかなり速いスピードで増殖していることも分かりました。

主な症状は、食欲がほとんどないこと、味覚障害で食べ物が砂を噛むように感じる、立っているとふらつくこと、そして声が出にくいことなどです。

ただ、主治医からは、「痛みもなく、がんとうまく折り合いをつけている状態なので、急いでホスピスへの入所を考える必要はありません」と言っています。

この話を聞いて、驚かれた方もいらっしゃるかもしれません。

でも、私自身は、それほど驚きませんでした。

「ああそうですか。とうとう来ましたか」

というような感じで、淡々と受け止めることができました。

■寿命について

私は長年、レイキを通じて、心身の癒しに関わってきました。そのお付き合い中で、病気になったことを隠そうとする方にも、たくさんお会いしました。もちろん、人それぞれ考え方も立場も違いますから、それも一つの選択だと思います。

しかし私は今回、自分自身が重大な病気になったことで、「これから先を、どう生きていくのか」ということを、じっくり見つめてみようと思いました。そして、これからの私の生き方を、皆さんに見ていただくことも、何か意味があるのではないかと思います。

人には寿命があります。レイキを実践していても、現代医学がどれほど進歩しても、人間の寿命そのものを変えることはできません。

しかし、病気になったからといって、何もできなくなるわけではありません。残された時間をどう過ごすか。どんな気持ちで、一日一日を生きるか。そして、自分がこれまで歩いてきた道で得たものを、どのように次の人たちへ渡していくか。私は、そこに大きな意味があると思っています。

■妻のこと、家族のこと

私の場合は、いろいろなことが重なりました。これまで食事の準備や買い物、病院への付き添いなど、私の面倒を見てくれていた妻が、突然、腰を痛めて動けなくなりました。

救急車で病院へ運ばれ、圧迫骨折と診断されてから約2か月。時間はかかっていますが、今では自分でトイレにも行けるようになりました。

それだけでも、本当にありがたいことだと思っています。そして、私も妻も、子どもたちにずいぶん助けてもらっています。長男は毎日のように来てくれますし、休日には長女も来てくれて、家のことを手伝ってくれています。

こうして、普段なら少し疎遠になりがちな家族に支えてもらいながら、私たちは今を過ごしています。

■余命について

「余命」というのは、残された命の長さをいうのでしょうか。しかし、それがいつまでなのかは、私たちには分かりません。ですから、私はこれから先のことを、宇宙に任せようと思っています。

明日が来れば、明日を生きる。次の日が来れば、その日を生きる。

気持ちよく眠って、朝、目が覚めたら「今日もまだ、自分には役割が残っている」と感じて、感謝する。

そして、その日に自分のできることが目の前に出てきたら、無理のない範囲で取り組む。五戒に示されている「今日だけは」を大切にして、生きていきたいと思っています。

■二つの座右の銘

私には、二つの座右の銘があります。その一つは、作家の武者小路実篤さんの「この道より我を生かす道なし、この道を歩く」という言葉です。私は60歳で定年を迎えてから約30年間、現代レイキの道を一筋に歩いてきました。そして今、「この道を歩いてきた目的は、ほぼ達成できたのではないか」と思います。もちろんまだやり残したことはあります。しかし、これから私自身が何かをするというよりも、これまで歩いてきた道の中で手に入れた大切なものを、次の人たちへ引継いでいくこと。それが、これからの私の大きな願いです。

もう一つの言葉は、短い期間ではありましたが、深い親交を持つことができたカール・サイモン博士が、私のノートに書いてくださった言葉です。「命が永遠であるかのように生きていこう。そしていつ終っても悔いがないように、心の準備をしておこう」。今回、余命3か月と言われた私にとって、この言葉は大きな支えになりました。命がいつまで続くのかを心配するのではなく、命が永遠であるかのように今日を生きる。そして同時に、いつ終わっても悔いがないように、心の準備をしておく。この二つは、決して矛盾しないのだと思います。

■皆さんへのお願い

この会場には、現代レイキが始まったところから、同じ道を一緒に歩いてきた皆さん。

途中から加わってくださった皆さん。そして、最近新しくご縁のできた皆さん。

本当にいろいろな方がおられます。

今日ここで私の病状をお話ししたのは、皆さんに心配していただくためではありません。

まして、私からの「お別れの言葉」を伝えたいわけでもありません。

私はまだ、皆さんとお別れするつもりはありません。できることなら、これからも皆さんと一緒に、現代レイキの将来に向かって歩いていきたいと思っています。

ただ、90歳を超えて体力は自然に低下しつつあります。病気とは関係なく、皆さんとの別れの日が、少しずつ近づいていることを、以前よりも実感するようになりました。

だからこそ、今のうちに、自分の言葉でお伝えしておきたかったのです。

もし今からでも、まだやり残していることに取り組む時間が与えられるなら、一つずつ整理していきたいと思います。そして私がいなくなった後も、現代レイキが誰かの都合で形を変えられるのではなく、できるだけ純粋な形で、次の世代へ引き継がれていくことを願っています。

レイキの実践は、最終的には一人ひとりが自分自身で実践し、自分を高めていくものです。一方で、エネルギーの世界では、同じ波長を持った人たちが共振・共鳴することで、さらに大きな力が生まれます。現代レイキの仲間には、宇宙平安の祈り、新年互礼会、交流会、研鑽会など楽しみながら、ともに向上していくための仕組みがあります。また、他の系統にはない、国際的な交流もあります。

どうか皆さんの力で、この素晴らしい仕組みを、これからさらに大きく育てていってください。

■おわりに

今日、こうして皆さんの前でお話しできたことを、本当に嬉しく思います。

現代レイキとのご縁を大切にしてくださっている皆さん。

本当にありがとうございました。

そして、これからもよろしくお願いします。

繰り返しになりますが、私はこれから先のことは、すべて宇宙に任せたいと思っています。

命が続く限り、その日その日を大切に生きていきたいと思います。

もしかすると、来年の新年互礼会にも参加できるかもしれません。

そういえば、来年1月の新年互礼会の案内パンフレットには、私のメッセージが掲載されています。

そして、少し気の長い話ですが、2年先の2028年9月15日に開催予定の、天鷹神社に建立されている「臼井先生生誕記念碑の十周年記念」のメッセージも依頼されています。

……そう考えると、まだまだ先の予定が残っているようです（笑）。

まさに、「命が永遠であるかのように生きていこう」ということなのだと思います。

今日は本当にありがとうございました。